

## 第2回 小金井市産業振興プラン策定委員会 議事録

日 時 令和3年8月25日(水) 午後6時～午後8時15分

場 所 小金井市商工会館2階大会議室

出席委員 11人

委員長 中庭 光彦 委員

副委員長 斉藤 浩 委員

委員 森 文香 委員 清水 薫 委員

田中 千鶴枝 委員 高松 結花 委員

西川 亮 委員 大坪 正直 委員

山城 裕路 委員 今井 啓一郎 委員

鴨下 勇司 委員

欠席委員 なし

---

事務局 市民部長 西田 剛

経済課長 高橋 啓之

産業振興係長 鈴木 拓也

株式会社国際開発コンサルタンツ 氏原 茂将

---

傍聴者 2人

### 議事

#### 1. 開会

#### 2. 議題

##### (1) 関連する統計データ及び既存アンケートの結果について

事務局が、資料2～5を用いて、第1回委員会にて質問のあった内容について回答した。

##### 資料2：コロナ禍における昼間人口の変化について

斉藤副委員長 新型コロナウイルス感染症の影響で、どのような層が市内で過ごすようになっていくのかによって商売の仕方も変わってくる。参考にできるといい。

##### 資料3：コロナ禍における住民アンケートに関する報告

中庭委員長 利用している店舗が魅力的だからこそ楽しいと感じるようになってきていると考える方がよい。

今井委員 アンケート実施時期は令和2年12月だが、現在の状況はまた変わってきているのではないかと。コロナ禍にも慣れ、生活が元に戻っている人もいるのでは

ないか。

中庭委員長 確かなことは言えないが、慣れてきてはいるだろう。ただ、この委員会の前に武蔵小金井駅の様子を見てきたが、若い世代を中心に人通りが多かった。

斉藤委員 鉄道会社によると乗降客数はコロナ禍が始まって以降、数字は変わらないと聞いている。

今井委員 最近免許を取得する人や再講習を受ける人が増えていると聞いている。移動に電車を使わなくなっているということはないか。

中庭委員長 確かに非接触需要は増えているのは事実だと考える。

事務局 みなさんの日頃の生活範囲を知りたい。

森委員 コロナ禍になる前は新宿で待ち合わせるが多かったが、最近は行かなくなっている。出かけても立川や吉祥寺になっている。

高松委員 子どもがいるので新宿までは出かけない。立川から吉祥寺の範囲である。小金井市内ではあまり遊ばない。

大坪委員 地元で過ごすのが楽しいと思うようになった人がいたといっても、吉祥寺や新宿よりも楽しいと思っているわけではないだろう。小金井にも楽しいことがあると気づいたぐらいなのではないか。近所で過ごさざるを得ないからだろう。コロナ禍が過ぎれば、また吉祥寺や新宿に戻っていくと思う。

山城委員 産業振興プランを策定する共通認識として、コロナ禍は続くものかと考えるのか、それとも新型コロナウイルス感染症を克服するものかと考えるのか。

中庭委員長 意見交換をしたわけではないが、完全に元通りになるものではなく、新型コロナウイルスとはまだ数年つきあわざるを得ないのだろう。消費行動が変わるので、残念ながら店を閉める場所もあれば、逆に非接触需要で売上を伸ばすところもあるだろう。そういった意味ではV字回復ではなく、質が変わるようなかたちでK字回復が起こればと考える。そのような事態が2～3年程度で推移すると思うが、それ以降は不確かだと思う。

今井委員 影響を受けていない業種もあるのではないか。

中庭委員長 業種によって異なると思う。飲食店の客足は少なくなっているとは思いますが、売上や利益への影響は店側の創意工夫の範疇だと思う。それ以外の業種で業績を伸ばしているところもある。全体を俯瞰するべきだと思う。

#### 資料4：市民の交通行動の実態について

中庭委員長 市内での移動に自転車を利用している人が多いことが特徴である。徒歩や自転車で回れるまちということなのだろう。

斉藤副委員長 地元住民としては違和感がない内容である。

#### 資料5：市内第二次産業に関する現況詳細

斉藤副委員長 住宅産業の生産額が多いということは、ベッドタウンだということだと理解してよいか。

事務局 そのように理解いただきたい。

中庭委員長 賃貸マンションの一室でビジネスをしている人もいると思う。副業をしてい

る人もいると思うが、現在の統計では、そのような実態は把握できない。

## (2) 現行プランにおける取組状況及び新プランにおける取組について

- 中庭委員長 第一にまちの活気が目標となっているが、具体性がないので、委員各自が思うまちの活気について具体的に話し合いたい。第二として、まちの活気のために事業者として取り組もうとすること、市民として取り組んでほしいことを提案してもらいたい。
- 鴨下委員 農業者と商業者、行政がコラボして市内の公園を使った道草市というイベントを実施し、まちの活性化を試みている。そのためにはイベントを周知し、市民に知ってもらうことが大事だと思っている。色んな人たちといっしょに地道に続けていき、地産地消や食育ができていくとよい。
- 中庭委員長 世代や領域をまたいで、つながりが広がっていくとよいことかと思う。行政に取り組んでほしいことはあるか。
- 鴨下委員 小金井市観光まちおこし協会には、すでに支援してもらっているので、継続性が大事だと思う。
- 今井委員 特定の地域が好きというような濃い人が増えていくのが望ましい。市全体が好きというのは不自然なので、このエリアが好きだという人がいい。自活できるぐらいの地域が増えていくとよい。行政は、小金井市が好きで「バカ」をやるような人を雇用してもいいのではないか。
- 中庭委員長 若者・よそ者・バカ者というが、最近の行政にはバカ者はいないか。
- 今井委員 少なくなっていると思う。そういった人の勢いで市民が盛り上がり、楽しくなるのではないか。
- 中庭委員長 地域ではいるか。
- 今井委員 何人かはいる。
- 中庭委員長 小金井市は地域のお祭りの状況はどうか。
- 今井委員 市内各所でお祭りをしており、商店街に関しては継承もされていると思う。がんばっているのではないか。
- 山城委員 工業分野の立場でいうと、工業にとっての目標がまちの活気には直接結びつかない。地域を盛り上げる必要はあるが、業種としては無理があると思うので、工業は別途検討した方がよいと思う。
- その上で、まちの活気というのは、何かにあこがれて人が集まってきたり、住むようになってきたりすることだと思う。その何かをつくる主体は問わないが、「小金井市ってこういうところだよ」という思いから、人が集まってくるのだと思う。
- 中庭委員長 商業と工業が違うことは確かだが、ものづくりをしている事業者同士の連携はあるか。
- 山城委員 営業に関する情報交換はしている。ただ、そのような日常的な経営とまちの活気とは異なると思う。市内事業者として、まちを盛り上げるために行動す

- ることはよいのだが、事業と関連づけるのは難しいように思う。
- 中庭委員長 大田区は工場が多いが、宅地開発とともに操業しにくくなり、工場が減少していったという話を聞く。そのような事態は地域経済にとって損失である。住民、商業、工業が相互理解を育んだ方がよいと思う。小金井市ではいかがか。
- 山城委員 大田区は工場が多い地盤だと思うが、小金井市は大きな事業所は少なく、市民に知られていない。操業に対して理解を得るために連携するというよりも、たとえば工学系の大学との連携を考える方がよいと思う。
- 中庭委員長 農工大のベンチャーポートなどとの連携もあるか。
- 山城委員 合同で勉強会をしているぐらいである。
- 大坪委員 商業者としては、商店街的なまちの活気をイメージする。まちに特定の産業集積があり、それがにぎわいを生んでいるイメージだ。しかし、小金井市は産業集積が弱い。その上ににぎわいを生み出そうとするとときに着目しているのがブランディングであり、武蔵小金井を「ムサコ」と名付けて取り組んでいる。地域の商業や活動に共通のブランディングを持って情報発信することで共通のテーマが生まれ、活気生まれるのではないかと思う。まちの人たちが共通認識を持てば、まちが好きになり、住むようになり、買い物をするようになるのだと思う。
- 中庭委員長 八王子市ではご当地ラーメンをつくったが、小金井ブランドはないのか。
- 大坪委員 八王子市ではラーメン屋が協力してレシピをつくり、メニューとして提供し始めた。小金井市は、そういったメニューはない。
- 西川委員 まちの活気をつくる立場の人をどのように増やしていくのかを考えるとよいと思う。もうひとつは、小金井市に通勤・通学している人も含めて、活気をつくっていく場を用意することも大事だと思う。このまちで何かをやってみたいというチャレンジを受け入れられる器があるとよいと思う。個々の能力を高めて、発揮できれば、まちの活気になると思う。色んな趣味・嗜好を持っている人がいると思うので、そういう人が顕在化するとよい。関わりたいと思いつつながら、機会がないから関われないという人も多くいると思う。機会があるとよいと思う。
- 中庭委員長 小金井市に足を運ばなくても、ネット経由で小金井市の産品を購入する人も関わっているということになるのか。
- 西川委員 そのように考える。
- 事務局 小金井市は、20代前半で転入する人が多い。進学・就職のきっかけで小金井市に住み始めるようだ。転出については30代で転出超過となる。住宅取得等で市外に出ていくものと推察される。
- 中庭委員長 長く住んでもらえているという印象である。八王子市は大学が多いので、進学のタイミングで転入が増えるが、就職するときに転出する人が多い。
- 高松委員 生活していて楽しいと思えることが大事だと思う。小さな子どものいるファ

ミリー層に目を向けてはどうか。小金井市は子育てをしやすいといわれているが、親も子も楽しめるまちになるとよいと思う。小金井市で子育てをしたいと思われるようになると思う。

中庭委員長  
高松委員

生活していて楽しいというのは、どのようなことか。

家族で滞在したくなるような屋内施設が駅周辺にできるとよいと思う。小金井公園など、自然に触れられる場所は多いと思うが、暑い時期や雨の日は行くことができない。天候にかかわらず子どもが遊べるところが駅近くにあるとよいと思う。東京学芸大学と連携して知育・教育プログラムを充実すると、小金井市独自の魅力になると思う。

中庭委員長  
高松委員

子どもといっしょに楽しめる場所は少ないのか。

都立公園はあるが、駅近くに住んでいる場合は市境にあるため行きにくい。駅前再開発の商業施設も、ユニクロや GAP のような子育て世帯が求めるようなテナントは入っていないため、買い物が市内で完結しない。結果、立川や吉祥寺に買い物に行くことになる。市内で完結できるといい。

中庭委員長

ネットで購入することはないのか。その他に市外に出ざるを得ない買い物はあるか。

高松委員

自分は実際に商品を見たいので店に行く。その他、小金井市ではプレゼントを買おうとしてもおしゃれなものが売っていないので、立川や吉祥寺に行くことになる。

今井委員

小金井市にはそういったお店がないので仕方がないと思うが、仮に大型のチェーン店が増えても小金井市の税収にはつながらない。チェーン店を誘致することはいかがかと思う。

中庭委員長  
高松委員

そういったことを、この会議で検討していきたい。

小金井野菜の直売所を見かけるが、食べられる場所が少ないと思う。駅周辺にあれば目にすることも多くなるのでいいのではないか。農業に関する取組があってもよいと思う。

中庭委員長

大坪委員のブランディングの話にもつながると思う。都市農業は、農業以外の所得がある場合も多いが、そのために農業でチャレンジできる場所もあるのが利点である。

田中委員

小金井市に求めるまちの活気は、吉祥寺のようなにぎわいではないと思う。小金井市らしいよい雰囲気のみを求めたい。人の往来は活力に結びつくものだが、それは市民がまちを盛り上げようとするマインドがあつてこそだと思ふ。そのようなマインドが表れるのは、まちのきれいさが挙げられると思う。衛生的であることはもちろん、道路が凹凸なく整備されていることや、赤ちゃんをベビーカーで連れて店に入りやすい設えがなされているなど、気持ちのよいまちであるといいと思う。みんなが心地よく暮らせるように努力することだと思ふ。

中庭委員長

いまの小金井市に、そのようなマインドを感じるか。

- 田中委員 この委員会で努力している人がいることをはじめて実感している。期待感はあるのだが、それがもっと表面化するとよいと思う。
- 中庭委員長 店の入りやすさでベビーカーへの配慮について触れられたが、その点での現状はいかがか。
- 田中委員 駅前整備されているが、商店街に入ると歩道も狭くなり、自動車と歩行者の距離が近くなる。そうなる店にも行かなくなるので、安全面の整備は取り組んでほしい。
- 清水委員 まちの活気は、通りすがりに挨拶をするような、人と人の関係性が見えることだと思う。市外から訪れた人も目にすることができれば、活気を感じると思う。地域でイベントをする際に、商店街に利益があることはもとより、周辺住民の理解も得られないといけない。大坪委員のいう共通認識が育まれることが必要だ。楽しい人を発掘する上でも人と人との関係が大事だと思う。うまく関係性が築けていると、まちに来てもらえるようになる。行政にも周知に取り組んでもらうことで、みんなが同じ方向を向いて取り組んでいけるとよいと思う。
- 中庭委員長 関係性や関わりが大事ということか。
- 清水委員 地域のお祭りでも挨拶し合うような関係性が見えると、よい雰囲気になる。フレンドリーな雰囲気を発信できると地域ならではの魅力になると思う。
- 森委員 顔の見える関係性があることが、地域の強さだと思う。それをベースとして、楽しい、ワクワクするといったプラスの感情を持つことができる。そうすると場所に対して好感を持つようになると思う。
- 中庭委員長 まちが好きな人やマインド、人と人との関係性、コミュニティといった言葉が共通して語られていると思う。とはいえ、ビジネスなので売上がないといけない。売上が減ってきた商店に対して買い支えようとする人はいるかどうか。商店ががんばっていて、顔の見える関係性があれば、そのような人が出てくるとは思うが、いかがか。
- 森委員 人と人とのつながりがあれば、その人のために行動したいと思うようになると思う。そうすれば経営的に厳しい状況のときに助け合う関係性になれると思う。
- 斉藤副委員長 駅前の再開発や道路の拡幅があった関係で駅前商店街などのコミュニティが壊れたように思っている。便利になったが、個人商店は少なくなり、顔の見える関係性もなくなった。商店街や自治会のようなこれまでのかたちにこだわらないので、エリア単位でコミュニティをつくっていけるとよいと考えている。移住してきた人たちも地域で活動したいという人もいれば、福祉や教育に取り組んでいる人もいるが、商店街がうまくつながることができない。行政にはうまく取り持ってもらいたいと思っている。考え方が異なる場合も少なくないが、緩やかにつきあっていけるとよいと思う。
- 中庭委員長 人は自分に合った場が集まってくるものなので、緩いコミュニティをつくれ

ば、緩やかにつながることができると思う。

今井委員 高松委員が先ほど小金井産の野菜でつくったメニューが食べたいといていたが、産地を問わずにつくるメニューよりも高くなる。それでもお金を払うものか。

高松委員 メニュー次第だと思うが、小金井産野菜という名前だけでは十分ではなく、質が高いかどうかだと思う。

今井委員 人間関係が大事という意見があるが、どのくらいの距離感が適切か。近しい関係が望ましいと思うが、近すぎると思う人もいると思う。

森委員 節度もあると思うが、気兼ねせず声かけができる関係性はよいと思う。

### 3. 閉会